

2019年2月5日

藤井誠一郎

武田知己

概要

2018年8月21日（火）～8月26日（日）の5泊6日間、参加学生13名を引率し、沖縄県を訪問した。今年度は、普天間基地返還をめぐる基地周辺の自治会・政治家・団体へのヒアリングとメディア（琉球新報・沖縄タイムス・八重山日報・スターズアンドストライプス）へのヒアリングを特に充実させ、さらに南部の戦跡視察も取り入れたプログラムを立てた。教員の参加は、藤井・武田の2名である。なお、蔵田明子研究補助員及び小川美咲東松山図書館職員にも引率教員と同等の役割を務めていただいた。記して感謝申し上げる。

以下、実施内容について報告し、来年度以降に向けての課題も示していく。

8月21日（火）

初日は、県立公文書館にて、津覇美那子様より、琉球史及び沖縄戦に至る近代史を、映像資料などを駆使して説明いただいた。今回は、特に沖縄戦の悲惨な状況とともに、占領下のアメリカ統治が始まる過程の資料に関心を持った。普天間基地の航空写真なども見ることができた。

その後、戦史研究班は続いて公文書の調査に残り、他の学生は、宜野湾市に向かった。



宜野湾市は、このプログラムでは3年連続で訪れているが、特に真栄原自治会へのヒアリングは2回目となる。3名の自治会からの代表の方々に、質問をお渡ししながら、車座になって2時間ほどのお話を伺った。お話の内容は多様であり、基地問題に対する現地の方々の複雑な思いがよく伝わってきた。

その後は那覇市まで戻り、宿泊した。

8月22日（水）



2日目は、自衛隊東京協力本部の佐野量子所長、松本祐史様の引率の下、那覇駐屯地で部隊研修を行った。那覇駐屯地には、隊員の皆さんが手ずから作成された沖縄戦のジオラマが残されているが、そのジオラマ体験が目的である。毎年見せていただいているが、今年はリノベーションされたジ

オラマを見ながら、40分程度の説明に聞き入った。

その後、宜野湾市に再び足を運び、沖縄国際大学や琉球大学の学生との交流会を開催した。そこでは若い世代の率直な沖縄観や本土観、中国の脅威や米軍の存在、基地反対運動への思いなどを聞いた。



8月23日（木）～25日（土曜日）

3日目からは、各班に分かれてのヒアリングが開始された。以下のような場所・方々にお話を伺った。



A 琉球史・沖縄戦史研究班 前田高地（戦跡視察）／南風原視察（南風原文化センター・沖縄陸軍病院 南風原壕群 20 号）／平和資料館／海軍司令部壕／中城見学／首里城見学

B 基地と住民研究班 宜野湾市役所基地政策部基地渉外課／前泊那覇市議会議員ヒアリング／緑ヶ丘保育園関連ヒアリング／桃原宜野湾市議会議員ヒアリング／宜野湾市自治会ヒアリング 上大謝名自治会／宜野湾市自治会ヒアリング 宜野湾区自治会

C 沖縄とメディア研究班 琉球新報／与儀武秀氏（沖縄タイムス記者）講演会／八重山日報ヒアリング／Stars and Stripes ヒアリング

特にヒアリングの際の内容については、公開の取り決めがまだなされていないものもあるため、ここでは省略するが、少なくとも今後の教育活動に処するような形での記録の保存、利用の仕組みを考えているところである。



最後に

今年度は、昨年度に引き続き、ヒアリングをふんだんに取り入れることとした。そのため、引率教員の数が一定程度必要になっている。他方で、現地研修前に、学生のヒアリング能力の向上を図る必要があることも痛感している。次年度の課題としたい。

また、今回は、学生に現地研修で考えが変わったところを意識させた事後報告をさせている。この方式には、教育上、一定の効果があるように思う。次年度よりは、学内報告会形式での発表を模索して、参加学生の「まとめる力」「表現する力」の向上を図りたい。

最後に、ヒアリングに御協力いただいた沖縄県の皆様、研修などでお世話いただいた自衛隊東京地方協力本部北地域事務所の皆様に、改めて感謝申し上げたい。